

ねやがわ

ふるさと

わらびやつくしを採った
ふるさとの体験、今につながる

「ポンテベッキオ」創設、
イタリア料理シエフ 山根 大助



関西で活動するイタリア料理の旗手として知られる山根大助さん（56歳）は、小学校から高校卒業後まで市内で育ったそうです。平成28年に30周年を迎えた大阪市中央区の本店で、ふるさとへの思いなどを伺いました。

市立東小学校に通っていた当時、住んでいたのは高宮あさひ丘の高台。周辺にはまだたくさんの緑がありました。「自転車で乗って飯盛山まで行き、のどが乾いたら道端のすかんぽをかじり、秋にはあけびを山ほど食べた。わらびやつくし、せりも採りました。ため池もあちこちにあった、えびや小ぶなを捕まえて……」。

わらびを集めたとき、農家で稲わらを分けてもらい、焼いて灰をつくって、その灰で本格的なあく抜きに挑んだこともあるそうです。日本の原風景のような体験でした。「命をいただくという感謝と敬意。食材への思いが今の仕事につながっている」と語ります。

わらびのあく抜きにとどまらず、うどんを手打ちして家族に振る舞う、小さな料理人でもありました。

一方、イラストや自動車のデザインを描くのも好きで得意だったそうです。市立第一中学校から府立南寝屋川高校（現府立緑風冠高校）に進んだ頃はデザイナーが料理人、どちらを目指すか決めかねるほど。「デザイナーになるには、まず難関大学に入らないと」と聞いたことがあ



「食材への感謝と敬意を忘れない」と語る山根さん

りました。机に向かって勉強するのは苦手だったので」と料理の道を選んだそうです。

高校卒業後、大阪市の調理師学校、神戸市の老舗イタリア料理店を経て昭和59年にイタリアへ。ミラノにある現代イタリア料理を代表する店などで飛び込みで修業させてもらいました。

昭和61年に帰国し、大阪市内で「ポンテベッキオ」という店を開きました。一般の日本人にとってまだスパゲティと言えば洋食屋さん、ピザは宅配のイメージが強かった時代。山根さんの店は、素材を生かす創意工夫した現代的なイタリア料理を提供する、関西の草分けでした。

平成16年には、イタリアの食文化紹介の功績が認められて、同国政府から勲章を受章。これまで200人近くの弟子を育て、多くの人が独立しています。

平成27年、忙しい仕事の合間に市立明和小学校で食育の出前授業を引き受けたことがあります。「子ども頃、すばらしい体験ができたふるさとだから」。これからも機会があれば、協力したいと考えているそうです。



桜のライトアップ 約5万9,000人を魅了

3月30日～4月8日に打上川治水緑地で行われた「桜のライトアップ」は、10日間で延べ約5万9,000人が訪れ、幻想的な夜を楽しみました。貸し出した竹細工ランタンを手に、会場を散策する姿もちらほら。池に映り込む桜、着物の帯でドレスアップした桜、淡いピンクや紫色で照らされた桜など、たくさんの桜がSNSで発信されました。

期間中、毎日日替わりで市内の飲食店が出店された「桜カフェ」は大にぎわい。寝屋川土産として販売された和・洋の「桜スイーツ」は、合計1万1,000個が完売しました。



保育施設「クローバー」がオープン

年間を通じた待機児童ゼロを目指して

4月1日、待機児童保育施設「クローバー」が成田西町にオープンしました。この施設は、市の「待機児童ZEROプラン」に掲げる事業の1つで、希望する保育所などに入所するまでの間、一時的に児童を受け入れる民間の認定こども園の分園として、現在、9人の児童が入所しています。

木のぬくもりある、子どもの笑顔があふれる保育施設となっています。



サクラ植樹記念式

3月20日、東寝屋川駅前ロータリーで植樹記念式を行い、シンボルツリーとなるシダレザクラ3本に土入れが行われました。

「サクラ☆プロジェクト」の一環として、市内に点在する桜の名所へのルートをつなげるため、市内の鉄道駅を拠点とした植樹計画に基づき、寝屋川市駅から東寝屋川駅をつなぐルートとして、昨年のさわやかロードや寝屋川左岸への植樹に引き続き行うものです。

シダレザクラについては、地域の雰囲気に合うものとして、地元との協議により決定しました。



新ごみ処理施設が完成

竣工式を開催

4月1日、新ごみ処理施設の竣工式を行いました。新ごみ処理施設は、効率の良いごみ焼却を実現し、焼却熱を利用するごみ発電により施設内で使用する電気をまかなえるほか、排ガス処理について、法令で定められた基準よりも厳しい自主基準を遵守するなど、環境対策に優れた施設となっています。

式の後には、施設見学が行われ、約40人が参加しました。



日本農業賞の受賞を報告

「第47回日本農業賞」を受賞した美井元町の南保次さんが3月26日、北川市長に報告しました。

全国農業協同組合中央会などが、地域に貢献している農業者に贈る賞で、南さんは中でも生産者と消費者とを結ぶ意欲的な活動の「食の架け橋の部」で特別賞に選ばれました。

南さんは市内でも数少ない専業農家で、住宅街に囲まれた成田南町の水田では毎年、地元の幼稚園児、大学生と市にちなんだたんぼアートを作り、みんなで収穫祭を開く活動などを行っています。

※南さんについては、「広報ねやがわ」平成29年5月号でも紹介しました。



シニア海外ボランティア、 青年海外協力隊で海外へ

3月23日、小西一雄さん、中井悠野さんが市役所を訪れ、それぞれシニア海外ボランティア、青年海外協力隊として2年間派遣されることを北川市長へ報告しました。

小西さんは、定年まで機械製造業の会社で勤めた経験を生かしコロンビアへ派遣されます。「コロンビアの中小企業の人たちと一緒に働き、品質管理・生産性向上の点で役に立ちたい」と話しました。

中井さんは、助産師として働いている経験からガボンへ派遣され、母子保健指導などを行います。「発展途上国の人たちが、今以上に健康で幸せに暮らせるよう力になりたい」と話しました。



御当地 ナンバープレート 交付開始

全国初の排気量別
デザインを採用

4月1日から、御当地ナンバープレートを交付しています。デザインには、市マスコット・キャラクター「はちかづきちゃん」「ねや丸くん」や市の木・桜、市名の由来でもある寝屋川をモチーフにした「川」が取り入れられており、全国初となる排気量別(50cc以下・90cc以下・125cc以下)に異なる3種類となっています。

平日午前9時～午後5時30分に市民税課で交付しており、現行のナンバープレートから交換もできます。



多彩な作品が並んだ ハート・アート展

市内の精神科の診療所や病院、福祉サービス事業所を利用している人が創作した作品を展示し、市民ギャラリーで3月18日～20日に行われました。今回で4回目の開催で、絵画・手芸・貼り絵・木工・書・写真などジャンルもさまざまな約100点が披露されました。それぞれに感想を書くコメントカードも準備され、中には「ステキなイラスト。かわいい!」と感想が貼られた作品について、作者が「ありがとうございます」のコメントカードで応える交流もありました。



まちびらき 小路土地区画整理事業

小路地区区画整理事業の工事完成に伴い、3月27日、まちびらき式典が開催され、関係者など約70人が参加しました。この事業は第二京阪道路を生かした物流・商業施設の集積を誘導し、魅力ある広域物流拠点の形成を目指すもので、宅地や農地の造成、道路や公園といった公共施設整備などが進められてきました。今後、測量や換地処分などを行うことで事業は完了し、誘致している物流施設や商業施設などは、平成32年度までに開業する予定です。



鳥の楽園 打上川治水緑地

打上川治水緑地では、毎年多くの渡り鳥が越冬します。中でも目立つのが「ひどりがも」。雄の頭が茶色、モヒカンヘアのような位置にクリーム色の毛があるのが目印です。芝生に上がり、草の実などをついばむこともあります。大きな音を立てたりしなければ結構、近くまで寄って来ます。市内の野鳥愛好家によると、秋に最も早く渡って来て、翌春も最後までとどまります。打上川治水緑地は、身近に野鳥がたくさん見られる貴重なポイントです。



約2万枚の 花びらで チューリップアート

4月15日、チューリップの花で絵を描くイベントが大利町で行われました。地域の小・中学生や大人約150人が参加し、キャンパスにチューリップの花びらを1枚ずつ丁寧に貼り付け、はちかづきちゃんやねや丸くん、蝶々など、色とりどりの鮮やかなアートが完成しました。チューリップは、産地の富山県から提供されたもので、球根生産の工程で発生する花びらの部分を活用しています。



田んぼは残っていて、約半世紀前の面影があります。道沿いの水路は蓋をされた暗渠（きょ）となり、路上にマンホールが並びます。その左側はずらりと住宅が建ちました。それでもまだ、奥に旧家の屋根が望まれ、ゆったりした雰囲気を感じられます（撮影地…上神田一丁目）。



いま

平成30年2月

ねやがわ
写真館

52
年後



むかし

昭和41年2月

田んぼに沿った道を、花嫁が歩いています。嫁入りの日、婚家への道筋を普通に向かうと鬼門（縁起がよくないとされる方角）から入ることになるので、少し離れたところで車を降り、別の方角から歩いたのだそうです。まだ、農村風景が市内のそこそこに見られた頃の事です。

市民から提供された写真を使用しました。30年以上前の市内の光景写真を貸してもらえ人は広報広聴課まで連絡してください